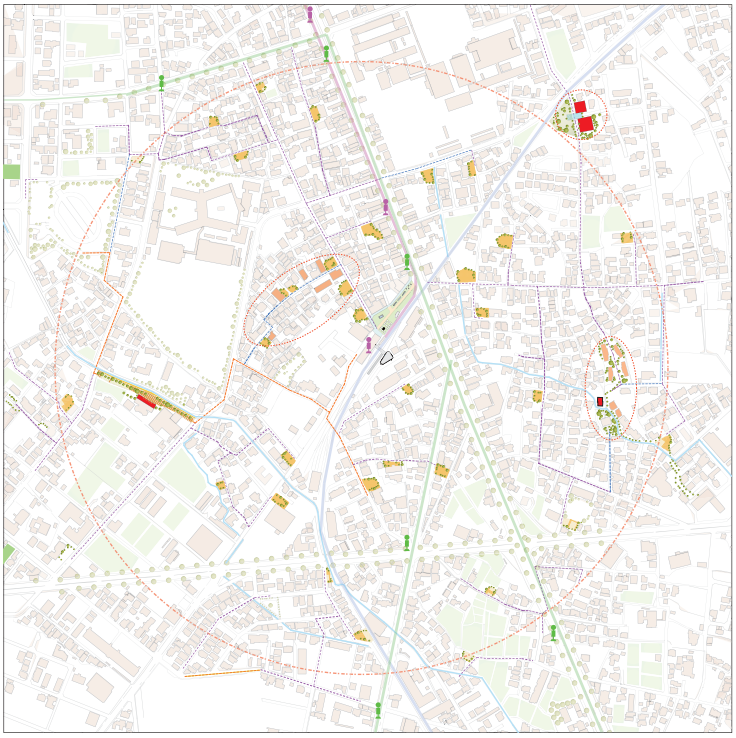
登録番号　２５

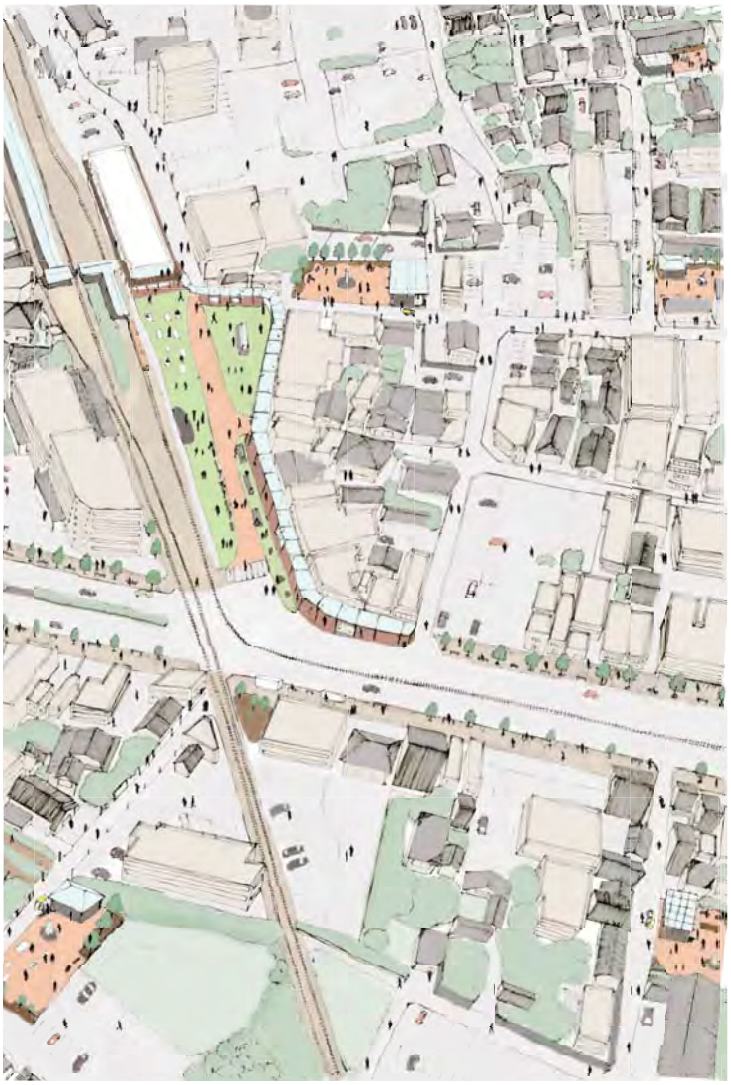
熙熙攘攘（ききじょうじょう）

ー人が往き交い、暮らしを創り還るまちづくりー

中心市街地が近く、鉄道と市内電車が結節し、居住性、利便性をもつ地域生活拠点として位置しているが、少子高齢化や外延化、在宅化などで、歩いていても人になかなか出会わない寂しい街になりつつある。そこで、南富山駅の改修、新たな拠点・交通の導入、ガラスを利用した活動を行っていく。

街全体に外出したくなるきっかけをつくり、交流機会を創出していくことで、市民自身で街の魅力に気付き、街が子供から高齢者で溢れ、にぎやかな街に姿を変えていく。





【A: 駅前に再び活気を】

南富山駅は老朽化、交通結節点機能が不足しているなどの問題を抱えている。そこで、駅を改修し、**商業施設やライブラリーの機能**を持たし、南側へのアプローチを可能にする。駐車場として利用されていた駅前には**プラザを設ける**ことで、イベントや駅前の商店の活動の場といったコミュニティのための空間になる。

【B：定住できるまちへー地域交流生活拠点・集住エリアの設立】

公共交通の不便性や、商業施設などの散在化などが現状である。そこで川・林・公共施設などの**南富山が持つ資源を生かし、住・商業・福祉・学校・神社など様々な用途が混在する三つの交流生活拠点となる場**を作る。拠点の近くに様々な住戸タイプをもつ集住エリアを設け、多世代が住める環境を作っていく。

【C：ポケットパークの設置】

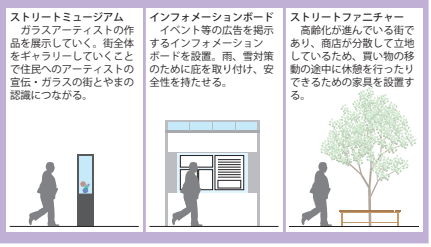
一世帯の車保有率が高いこともあり、駐車場・空き地が数多く存在する。駐車場を集約し、新しくできるオープンスペースにポケットパークを点在させる。ポケットパークは**コミュニティビーグルの停留所、ベンチやガラスの展示、朝市、マーケットなどを開くことができるイベントスペースとなり、生活の延長のような場所**を作る。

【D：ガラスの街とやま】

昭和 60 年から富山市は文化の創出・地場産業育成を目的に「ガラスの街とやま」の取り組みを始める。しかし、南富山駅周辺ではこの取り組みが見られない。そこで、この取り組みを富山市役所とガラスアーティストが共同で運営して行っていく。ガラスアーティストの拠点、子供や高齢者の趣味の場としてつくることやガラスのリサイクル活動などで、**ガラスの街とやまの認識・住民の外出促進**を計る。

【E：コミュニティビーグルー新交通の導入】

自動車依存や公共交通の減少、商業施設の散在化は高齢者など、車を自分で運転できない人たちにとって住みにくい街の原因となっている。そこで、環境に良く、低床で高齢者でも乗りやすい**ゴルフカートを安全で自由性の高いコミュニティビーグルとして導入する。**

【F：プロムナードデザイン】

現在、どの道にも居場所はなく、歩く場所でしかない。そこで、**道をギャラリー化・情報発信の場・コミュニティの場**とすることで、それぞれの道に個性を持った居場所ができる。歩いていて、**安全で楽しい道を目指す。**